

令和 6 年度 学校関係者評価実施用紙

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 〈守る〉安全で安心な教育環境づくり

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意 見
ア	安全な学校環境の整備				
	命を守る防災力の向上	・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100%	A	A 5 B C 1	・学校の特殊性を踏まえた上での発災時の家庭との連携方法を確認しておく必要を思いました。 ・発災はいつの時間帯に起こるかによって動きも必要な対応や条件が異なるため、そのような訓練も必要になる。例えば、東日本の時は、小は、スクールバスが運行中、中高は在校中で体育館へ、体育館にいる間、地震の情報が職員の携帯でしかとれず、事務室等とのやり取りに苦労した。職員も子供の迎え等の対応があった。 ▼豪雨の時の下校判断やスクールバス運行判断など課題に対しての評価がないのは対策が残っていないと思いました。教職員から 100% の評価だったことは、重大なことだったと認識が薄いのではと不安にすらなります。「緊急体制の反省点」がそのことを指すのであれば具体的に記載して共有した方が良いと考えます。インシデントの基準について昨年質問したが、改善があったのか疑問です。
		・適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員 100%	A	A 6 B C	・マニュアル作成についての着手は、これまでなかったことなので、大切な一歩を始めてくださりありがたいと思っています。 ・防災対策は終わりが無いので、引き続きお願いしたいです。ご家庭での対策も啓発していただけるとよりよいと思います。

人権を尊重する教育					
イ	子どもの人格と人権を尊重した教育の推進	・安心できる学校生活の中で、友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができた と答える児童生徒 90%以上)	A	A 6 B C	・人権に対する意識は高まっていると思われる。今後も日々の中で自動だけでなく職員、保護者についても続けてほしい。

(2) 〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力の育成

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上				
	自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実	・自分の将来の生活や進路について知ったり、考えたりすることができた児童生徒 90%以上	A	A 6 B C	・学校の特色として保護者の意向や保護者が動かなくてはならない進路選択や実習なので、その点についての目標なり方策が必要。 例えば、重身の保護者は付き添うことになる。その意図をきちんと説明できていますか？
	専門性をいかした授業の充実	・「できた、分かったなど喜びのある学びができた」と答える児童生徒 90%以上	A	A 6 B C	・肢体不自由の学校の専門性として、身体のことには欠くことができ倍と思うので、自立活動についての向上を今後改めて行ってほしい。
		・授業内で ICT 活用 1 回以上行ったと答える教員 100%	A	A 5 B C 1	▼タブレットを使った評価が「見る」ためだけのもので評価されているようでレベルが低いと日々感じています。高 1 の発表で使用したようにタブレットを使用してどう表現するかできるかを教員がスキルを身につけて教育していく必要があると思います。視線入力やタブレットの音声利用、様々な可能性を研修を充実させて実践してほしいです。自立活動課がリードしてほしいです。西部、中央に比べて東部は ICT 利用方法のレベルが大変低いと思います。備品を充実させるところからスタートして教員も勉強できる環境を作ってください。

	取組 目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意 見
	センター的機能の充実				
ア	児童生徒の学びと生活を支える連携の充実	関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員 80%以上	A	A 6 B C	▼関係機関は具体的にどのようなところでどんな連携が行われているのか。 ・学校公開を再開していただき、ありがとうございます。 ▼来年度は、主な教室の前の廊下等に先生方がいてくださると質問などしやすいかなとの意見がありました
	地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進				
イ	肢体不自由教育に関する情報発信、理解の推進	- 学校間交流を楽しみにして共に学ぶことができた児童生徒 100% - 学校の活動が分かったと答える保護者 80%以上	A	A 6 B C	・「実施した」「実施したい」内容は理解できるが、子どもたちにどのような学びを期待するのかわからない。 ・インクルーシブ教育の面でも一層重要になると思います。 ・交流については、長年培ってきているので、定番化しているかもしれない。 ▼ホームページの更新や内容についてだけでなく、見やすさや検索のしやすさについても時々見直してほしい。 ▼掲示物で交流の様子をお知らせしたりするのは、保護者が校内を

様式第 5 号

					見ないとわからない。ホームページなどで全体にお知らせする方法へシフトしてほしい。掲示物として見せることは、誰に向けたものか、また共有したい相手は誰かはっきりさせて共有する方法を考え直してほしい。掲示にしても届けたい人に伝わっていなければ意味がないです。
--	--	--	--	--	--

(4) 〈高める〉教職員が互いに支えあう職場づくり

	取組 目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意 見
ア	教職員の資質向上				
	学び続けるチーム作り	・授業参観を通し情報交換ができたと答える教職員 100%	A	A 5 B C 1	▼情報交換のその先をそれぞれの教員がどのように活かしているか。専門性向上のために個人的に外部の研修等どれくらい自主的にしているか。 ▼小中高学部できっぱり分けられて、先生方が情報・教育の内容が共有しづらそうに見える。同じ学校内でさみしいと感じる。とてももったいないとも感じます。
イ	業務改善の推進				
	働きやすい職場環境の構築	・既存の書式やデータを共有し活用することで事務処理にかかる時間や労力を削減できたと答える教職員 80%以上	A	A 6 B C	▼データの活用はどのように日常的にされているのか。パソコン作業による負荷は本当に削減できているのか。